

平成29年度 自己評価表

鳥取県立米子西高等学校

| | |
|---------|--|
| 本校の学校方針 | 質の高い授業と親身な指導を通して、進路実現に必要な学力をつけるとともに、地域社会の多様なニーズに応え、郷土に貢献する「知、徳、体、志」のバランスのとれた人材を育成する。 |
| 指導重点目標 | ①自己実現を可能にする学力の向上 ②基本的な生活習慣と社会的規範意識の確立 ③安心且つ切磋琢磨できる人間関係の構築 ④保護者・地域と連携した活気ある学校づくり |

| 重点目標 | 年 度 当 初 | | | | |
|-----------------------|---------|----------------------------------|---|---|---|
| | 評価項目 | 評価の具体的項目 | 現状 | 目標（年度末の目指す姿） | |
| ①自己実現を可能にする学力の向上 | 高い志の育成 | ○目的意識と学ぶ意欲の向上 | ○進路目標が明確でなく、学習に対する意欲に欠けている生徒がいる ○自らの可能性を低く評価してしまい、チャレンジする姿勢に欠ける傾向がある | ○「みらいチャレンジ活動」を中心に学問に対する興味や意欲を高め、主体的に学ぶ姿勢が身につく ○体験的な活動を重視し、目標達成に向けてチャレンジする態度・能力が育つ | ・「みらいチャレンジ活動」を充実させ、地域への公開も図る ・1年生・3年生の総合的な学習の時間の改善に向けて学年主任との連携を図る ・1年生での準備段階を充実させる。特に、話し合い活動を活発にするため、1年生でコミュニケーショントレーニングを取り入れる ○読書活動・体験活動を充実させるよう関係機関との連携を図る ・1・2年生でビブリオバトルを実施し、学年団・図書部と連携しながらコミュニケーション能力を育成をする |
| | | ○自ら課題を見つけその解決に向けて積極的に行動する態度の育成 | | | |
| 質の高い授業の実践 | | ○教員の授業力の向上を図り、生徒が主体的に参加する授業の創造 | ○生徒の授業への姿勢が受動的である ○授業での教師に対する評価、生徒の達成感が十分でない | ○アンケートにおける生徒の達成感に関する肯定的な回答が70%以上、教師の指導力に関する肯定的な回答が80%以上になる ○全教員でアクティブラーニングに取り組む | ・全教科、全教員でアクティブラーニングに取り組み、一層の授業力向上を目指す ・「みらいチャレンジ活動」と各教科でのアクティブラーニング型授業により、生徒の一層の能動的な授業態度を育成する ・iPadを中心としたICTの活用をさらに広げる |
| | | ○習熟度別クラス編成、習熟度別授業のより効果的な展開 | | ○生徒の学力の分析を行い、分かる授業を展開している ○先進校視察を参考にして効果的な学力向上策を立てる | ・学校課題に対応した先進校視察を通じて、本校に利用・導入できるものは積極的に取り入れていく ・生徒の習熟の度合いに合った授業・考査・評価を工夫する |
| 学習習慣の確立 | | ○高校での学習方法の理解と必要とされる家庭学習時間の確保 | ○予習・復習をしている生徒もいるが、効果的な学習方法がわからない生徒もいる ○全体として目標とする家庭学習時間に届いていない | ○家庭学習時間調査で次の目標を達成する 平日： 1・2年生2時間以上、3年生3時間以上 休日： 1・2年生4時間以上、3年生5時間以上 ○オリエンテーションを通しての学習習慣の確立と学習方法を理解する | ・課題の内容や量を精査しながら学力および学習意欲の一層の向上につながるよう取り組ませる ・進路講演会や個人面談等を通じて、日々の学習の大切さを生徒に理解させ、継続的に指導を行う ・生徒の能動的な学習につながるよう初期指導の充実および日常の継続的な指導を行う |
| | | ○休日や長期休業における学習の充実 | | ○土曜学習会、長期休業中の講習の参加者が増加する | ・夏季学習会では、事前に生徒に計画をきちんと立てさせ、より明確な意識をもって学習会に当たれるようにしていく ・部活動との両立の一助になるよう各部活動との連携を図る ・模試の復習においてデジタルサービスのより有効的な活用方法や指導方法について学力向上委員会等で検討する |
| 国公立大学に合格できる力をつけた生徒の増加 | | ○主体的に進路を選択できる能力の育成と戦略的な進路指導組織の確立 | ○目標とする国公立大学の現役合格者数にわずかに届かなかった ○入学時点での学力差が広がり、進路意識の多様化が進む傾向にある | ○キャリア教育を通して自立的な進路設計とその実現ができる生徒が増加する ○進路指導部を中心とした進路指導組織の確立する | ・3年生の進路講演会は予備校から講師を招いて実施する等内容を変更する ・10月と12月の進路調整会のあり方について3年学年団の意見を踏まえて、個人懇談や三者懇談で志望校決定の具体的な資料が提供できるようにする ・引き続き先進校視察、教員による大学訪問を実施し、進路指導に有効な情報の収集・蓄積を図り、生徒への指導に活かす |
| | | ○模試結果の利用とゼンター試験を意識した指導 | | ○1月進研模試で偏差値50以上の生徒数が1年生で160人以上、2年生で140以上になる ○国公立大学の現役合格者が60人以上となる | ・1・2年生の予備登録・本登録の時期や3年生の総体後など、回数は少なくとも進路を考えるべき時期に「進路だより」を通じて必要な情報を発信し、意識を高めさせる ・模試等で数値目標を設定し、その実現に向けて委員会等で検討を行う ・模試分析を活用し、授業内容の改善と課題の工夫に繋げる |

評価基準 A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%程度） C：変化の兆し（60%程度） D：まだ不十分（40%程度） E：目標・方策の見直し（30%以下）

| 重点目標 | 年 度 当 初 | | | | |
|-----------------------|----------------|---------------------------------------|---|--|---|
| | 評価項目 | 評価の具体的項目 | 現状 | 目標（年度末の目指す姿） 目標達成のための方策 | |
| ②基本的な生活習慣と社会的規範意識の確立 | 基本的な生活習慣の確立 | ○健全な心身の育成 | ○問題行動は若干あったが、生徒全体としては概ね落ち着いた学校生活を送っている | ○年間の問題行動発生件数が0になる | <ul style="list-style-type: none"> ・2・3年生への働きかけを強化し、学年集会、終業式等で強く注意喚起する ・教室掲示用の「生徒部からの注意」を学期ごとに作成し、問題行動の発生防止に努める ・引き続き毎朝の昇降口指導を行い、遅刻者ができる限り減るよう務める ・精神的な問題を抱えている生徒については、生徒支援部との連携を行う |
| | | ○学力向上につながる生活リズムの確立 | ○昨年度は一昨年度に比べ遅刻する生徒が若干増加した | ○年間遅刻者数が前年比10%減となる | |
| | 社会的規範意識の育成 | ○社会の一員としての自覚の喚起 | ○自転車の運転マナーはやや改善したが、苦情の通報がまだある ○TEASの活動については、ゴミの排出量、電力使用量、水道使用量とも現在のところ今年度の取り組み目標をほぼ達成できている | ○地域からの信頼が向上する ○環境を意識した生活を送る | <ul style="list-style-type: none"> ・自転車通学時の事故も発生しており、自転車通学者への指導を強化する ・街頭指導の回数を増やすとともに、安全運転教室等の開催も検討する ・TEASに関しては、今年度の目標を達成する努力を継続していくとともに、生徒の環境意識を高める取り組みをしていく |
| ③安心且つ切磋琢磨できる人間関係の構築 | 健全な高校生活の充実 | ○部活と学習の両立ができる生徒の育成 | ○定期考査前の部活禁止期間も徹底できるようにはなってきた ○生徒会活動全般において、生徒会執行部が主体的に活動している | ○部活動と学習の切り替えがきちんとできる | <ul style="list-style-type: none"> ・週1日の部活動休養日を設ける ・引き続き定期考査前の部室の鍵の受け渡しについては、活動申請を確認したうえで行うようにする ・生徒会執行部の生徒たちが、自分たちの仕事や年間の生徒会行事をスムーズに進行している現在の状況を維持する ・上級生が下級生に仕事内容を指導する体制も作れており、1年生も積極的に活動に参加している。この状態を大切に、一層の生徒会活動の活発化を図る |
| | | ○部活動・生徒会活動の活性化 | | ○部長や生徒会執行部を中心とした自主的な活動ができる | |
| 望ましい人間関係の構築 | 望ましい人間関係の構築 | ○自己の個性の理解と他者の個性の尊重 ○自尊感情の育成 | ○コミュニケーションが苦手な生徒や不適応の生徒の増加傾向にある ○SNS等でトラブルがおこることがある ○ボランティア活動への参加者は増加している | ○自分を含め一人ひとりが大切な存在と認識できる ○良好な人間関係およびコミュニケーションができる | <ul style="list-style-type: none"> ・学期毎の職員会議において生徒の状況報告を行い、職員間の情報共有をさらに深める ・情報リテラシーに関する講演会は、今後も入学予定者とその保護者に対しても継続する ・教科「情報」だけでなく、iPadを用いた授業においても情報リテラシーについて積極的に取り上げる ・総合的な学習の時間や校内のHR活動と連動させながら、より一層のボランティア活動の活性化に取り組む ・地域での清掃活動を通して、生徒にも地域に関心を持たせる一助とする |
| | | ○社会貢献活動への積極的な参加 ○主権者意識の育成 | | ○各種ボランティアへの参加者が一層増加する ○学校として地域貢献活動へ取り組む | |
| ④保護者・地域と連携した活力ある学校づくり | 学校教育活動の積極的な公開 | ○PTA活動の一層の充実 ○学校と保護者の連帯の強化 | ○PTA大学訪問研修や交通安全街頭指導にも保護者の積極的な参加がある ○ホームページを利用したの情報発信方法を改善した | ○PTA活動への参加者が増加する ○よりタイムリーにホームページの更新を行う | <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時は、ホームページでもタイムリーな情報発信を行う ・教育活動の発信についても、担当者が校務委員会で確認する ・公開授業や「翠燦く」等の公開できる行事に関しては、地域の小中学校等にも案内を行う ・保護者への案内文書やPTA広報紙での発信に加え、ホームページの更なる活用や地域への発信も行う ・例年発行のPTA人権広報誌により、生徒・保護者への内容の周知とともに人権意識の啓発を図る |
| | | ○公開授業や人権公開LHRの充実 | | ○保護者、関係機関、地域からの参加者の増加する | |
| 地域や関係機関との連携の強化 | 地域や関係機関との連携の強化 | ○中高連携事業の一層の充実 ○文化部総合芸術祭「翠燦く」の一層の充実 | ○芸術科を中心とした中高連携事業は年々参加者が増加し、定着してきた ○高大連携により「みらいチャレンジ活動」の充実を図ることができた | ○芸術科だけでなく、他教科も含めて連携を模索する | <ul style="list-style-type: none"> ・中高連携事業の内容について中学校と連携し検討する ・「翠燦く」は、今までの多面的な感想を取りまとめ今後に生かすよう検討する ・大学訪問については、本校の卒業生との懇談等を取り入れ内容を充実させる ・「みらいチャレンジ活動」は、今年度もアドバイザー（大学教授）を迎え専門家から見た活動への評価を参考にする |
| | | ○高大連携の強化と生徒の変容 | | ○各大学訪問の参加者の予定人数が確保できる ○アドバイザーの指導により「みらいチャレンジ活動」が一層の充実する | |

評価基準 A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%程度） C：変化の兆し（60%程度） D：まだ不十分（40%程度） E：目標・方策の見直し（30%以下）